

## ＜アクトスを服用されている患者様へ＞

- ヨーロッパの疫学研究で、アクトスを服用している患者さんの集団で、投与していない患者さんと比べて、わずかに膀胱癌を発症した患者さんの数が多かったことが報告されました。しかし、アクトスを服用している全ての患者さんが膀胱癌になるわけではありません。米国の研究によると、米国の2型糖尿病患者さんの場合、アクトスを服用していない患者さんでは、10,000人あたり年間6.9人が膀胱癌を発症し、アクトスを服用している患者さんでは、10,000人あたり年間8.2人が膀胱癌を発症したとされています。
- 一方、日本人における膀胱癌の罹患率は2006年の統計では、6.9例/10万人年で、欧州における罹患率データ15.6例/10万人年、米国における罹患率データ21.1例/10万人年と比較すると低率となっています。
- 以上のように、今回の疫学研究の結果により、アクトスが膀胱癌の明確な原因として特定されたものではありません。また、アクトスを服用しなくても一定の頻度で膀胱癌を発症する患者さんはいるので、万が一、服用中に膀胱癌が発生したとしても、アクトスが原因か否かを究明することは困難と言われています。
- 膀胱癌の危険因子は、喫煙や加齢、慢性の尿路感染症などのほか、糖尿病に罹患していることも原因の一つとされています。なお、糖尿病を罹患している場合には、膀胱癌に限らず、さまざまな種類の癌になりやすくなるといわれています。
- 膀胱癌では血尿、排尿時痛などの症状が現れますが、これらの症状は膀胱癌以外でも現れることがありますので、定期的な検査を受けることをお勧めします。